

第3回日本山岳ラリー

9月13-15日



1000km区間にハードなたたかい!

今シーズンをギャランFTOで大健闘した菅野茂組。このイベントでも苦戦しながら順当に歩を進め、総合2位。

写真とレポート・難波 周

2CP直後で大量ミスコース

ことして第3回を迎えた〈日本山岳ラリー〉は、日本アルペンにつぐ規模のラリーとして9月13-15日、ルート6の主催によりすでに秋の色も濃くなった福島、山形県を舞台に開催された。

競技は例年どおり、1日めの夜とふつかめの夜がメインの2ステージ制。その各ステージはさらに2セクションに分けられ、いずれも秒計時。第1セクションは秒スタートで、ドライビング、ナビゲーション、ともにシビアなテクニックが要求されるリライアビリティラン。第2セクションは、3日間にわたって合計16カ所のスペシャル・ステージ(SS)を消化するSSセクションということで、最近のラリーではめずらしくスポーツ性が高く、内容の濃いイベントである。

しかし、参加台数はこの内容に反して28台とふるわず、参加者の大半は公認ラリーで活躍する中堅エントラントで占められた。なかでCMS C福島の菅野茂(ギャランFTO)とチーム・サヤマの島国治(シビックRS)は、サザンクロス・ラリー遠征への足ならしか。菅野の話では、経費のかかる日本アルペンを敬遠し、大して内容の違わないこのラリーを選んだとのことだ。

その他では、最近の進境いちぢるしい山内伸弥が浜松からカーリーナGTで参加、チーム・アルパインの飯島一美は柑本選手のサニー1600で、このクラブのラリーに強い水戸の栗原敏保はランサーで出場、オールド510を駆るのは関口保(チーム・サムライ)と

大阪から遠征の柴垣宗良組(レビン)。SSで活躍して4位に入賞。



第2ステージに出発する山内伸弥組のカーリーナGT。最終結果は5位。

いった顔ぶれがおもなところ。

9月13日夕刻、東北自動車道・鹿沼インター近くの“レストラン鹿沼”に集合したエントラントは、午後8時30分からスタートを開始した。東北自動車道を一路、白河へと向かう。第1ステージの第1セクションは、白河インターから羽鳥湖をとおって、一度河内川林道をくだり、また羽鳥湖へターンする。そして勢至堂峠、三森峠から郡山に出たところまで。この間に12カ所のチェックポイント(CP)が置かれている。

アベレージは60km/hと40-50km/hが繰り返し出されるので、シビアなテクニックと駆け引きが要求される。

このセクション最初のトラブルは2CPを出た直後に起こった。場所は羽鳥湖手前、本来、直進が道なりだったのだが、この直進がくだりで、ハイスピードで走っている競技者にはのぼっている右側の道が道なりに見えたため、大半のチームがミスコース。ここで主催者は、各エントラントが以後の競技で戦意喪失となるのを防ぐため、後に3CPをノーカウントとすることにした。

だが、この間、シビックの鶴島組はミスコースに気づき、本コースに復帰するまでにコースアウトしてしまい、コースに引き上げるまで時間がかかったこともあって、戦線から離脱する。

河内川林道の4つのCPをこなし、羽鳥湖畔に戻ったところの9CPでは、飯島組がCP位置を誤って読み、176秒の先行で大き



強敵をくわして総合1位となったランサーの栗原敏保組。水戸にあるグループ光園に所属し、ルート6ラリーでは常連。



栗原と同じチームの佐久間広明組。カーリーナで3位にくい込んだ。

く後退してしまった。その後、三森峠に置かれた11~12CPで第1セクションは終わる。

山内伸弥組、トップ変転のドラマ

郡山からはふたたび東北自動車道で白河インターに向かい、今度は河内川林道ののぼり、くだりをSSでトライし、赤面林道のSSを終えたあと東北自動車道でレスト地点の二本松・えびす高原にいたる。これが第1ステージ・番2セクションというわけだ。

第2セクションのSSは合計7カ所。SS-1~3が河内川林道ののぼり、SS-4~6がくだり、そしてSS-7が赤面林道といった設定。SSの距離は、最短2.5kmから最長6kmまでの平均約5km。

SS-1は山内伸弥組(カーリーナ)と関西から遠征の柴垣宗良組(レビン)がトップ、SS-2~3は栗原敏保組(ランサー)、SS-4は関口保組(ブルーバード)、SS-5は柴垣、栗原、関口が同タイムという接戦。しかし、大づめのSS-6~7は関口組が1番時計を記録。第2セクションをぶっちぎった。逆に、菅野組のFTOはすでに5万kmも走っているため、オイルをつぎ足しつぎ足しという走りでも苦戦をしいられている。

14日・午前9時、第1ステージを終了した競技車がえびす高原に到着し、高原ホテルで仮眠をとるが、眠らず車両のサービスに没頭しているクルーもある。鶴鳥組は大減点は受けたものの、競技は続行しており、元気な姿をえびす高原に現わした。

第1ステージを終えた時点での上位は、1位・山内組(2240点)、2位・西川昭夫組(ブルーバード:2267点)、3位・菅野組(2322



関口保組のブルーバード510。第1ステージで5位だったが、リタイア。

点)、4位・栗原組(2337点)というところ。関口組は第2セクションこそトップで上がったものの、第1セクションの減点が大きかったため、5位にあまんじている。

中継点でサービスをすませた一行は、14日・午後6時30分にえびす高原をスタート。第2ステージの第1セクションへとは。このセクションは東北自動車道を白石インターまで行き、そこから三往を経由して蔵王エコーライン舟引不忘林道。その後、三往からのラリー区間で今度はSS-1にはいるといった設定である。

ところが、第2ステージの序盤で早くも競技は波乱が生じた。第1ステージ・トップの山内伸弥組は、この序盤を山内がナビゲーターを務めていたが、公式通知のノーチェック区間を見まちがえ、なんと1CPに329秒という先行ではいってしまったのである。これで、それまでの努力も水のアワ。優勝圏から大きく後退することになった。また、第1ステージ・2位の西川昭夫組も、2CP後にオルタネーター・トラブルが発生。蔵王小屋にあった3CPでは1678秒の減点をくい、完全に上位戦線からは脱落する。

堅実派の栗原組(ランサー)に美酒

蔵王エコーラインにある4CPから芳川林道の5CPまで32.2kmのロングチェックで、アベレージは35.0km/hながら各車、補正が合わず、けっきょくふたケタの減点を受けることになる。

舟引不忘林道の5~6CP間では、関口保組がマフラー脱落のために545点もの減点となるハプニング。こちらも第1ステージの好成績を棒に振ることになった。川原子の8~9CPを終えた

ところで第1セッションを終了。

第2セッションのSSは、三往のSS-1から始まった。このセッションは、第1セッションのコースを、今度はSSを結んで行なう。SS-1では、ルート6の神林邦雄組(ランサー)がトップのタイムをマーク。

ところが、この第2セッションでは第1で手痛いチョンボを犯した山内組が猛烈な反撃に移り、SS-2からSS-7までの残るSSですべてベスト・タイム。かろうじてSS-2で柴垣組が、SS-8で片山照喜組(バイオレット)が同タイムで肩を並べるだけだった。さすがに、ダート・トライアルの雄だけのことはある。

このセッションのSS-2では、健闘していた関口組がファンベルトを切り、スペアを用意していなかったことから、ついにここでリタイアを余儀なくされることになった。

これらさまざまなドラマののち、競技車は15日の早朝、ふたたびえびす高原に戻り、最後のSSであるホテル横のヒルクライムチェックポイントであわだしくカードを受け取る。



・コース(SS-9)に挑む。最後の見せ場となったSS-9でも山内組が強く、またもトップ。ついにこのセッションは山内組が他クルーを大きく引き離して独走。第3回日本山岳ラリーの終幕を飾ることになった。

けっきょく競技は、第1ステージの4位から着実に競技をこなしてきた栗原敏保組が、苦戦をつづけながらも上位でがんばっていた菅野組に12秒の差をつけ、きわどいところで逃げ切った。3位は栗原と同じグループ光園に属する佐久間広明組、4位は柴垣組。第2セッションで際だつ追い上げをみせた山内組も、けっきょくは5位にはいり、その“走り屋”ぶりを改めて印象づけた。

内容がほどほどで、組織力についてもオフィシャルカーが全車無線を装備するなど、それなりに努力していた日本山岳ラリーだったが、やはりこの台数ではくい足りない感じが強い。主催者としても、このラリーをもっと中・上級エントラントにアピールし、競技の中味を濃くすることが来年への課題ではなからうか。

第3回日本山岳ラリー結果

順位	車番	氏名	車名	第1ステージ	第2ステージ	総減点
1位	26	栗原 敏保/雨海 功	ランサー	2337	2536	4873
2位	4	菅野 茂/田口 雅生	ギャランFTO	2322	2563	4885
3位	11	佐久間公明/高安 俊一	カリーナ	2354	2620	4974
4位	21	柴垣 宗良/工藤 猛	レビン	2409	2653	5062
5位	14	山内 伸弥/内山 房夫	カリーナ	2240	2828	5068
6位	16	片山 照喜/飯塚 良裕	バイオレット	2398	2730	5128
7位	3	石関 誠二/梅沢 三郎	ブルーバードU	2471	2715	5186
8位	20	古川 功/伊東 隆	カリーナ	2477	3044	5521
9位	13	横田 利明/須佐 徳二	レビン	2825	2889	5714
10位	9	日暮 恵一/長谷川博之	ランサー	2499	3388	5887

チーム賞 1位:光園レインボー/16320 2位:ルート6/34949 3位:カーメイト福島/45752



勝田、柑本選手(予定)の出場するイギリスRACラリー・ツアー募集



秋を彩るヨーロッパ随一のビッグ・ラリー、イギリスRAC国際ラリーのツアーを募集します。このイベントは75世界ラリー選手権の最終戦にあたり、各ファクトリー・チームの最後の激戦場となることでしょう。DOHC・4バルブ・電子インジェクションなど、技術の粋をこらした世界各国の精鋭ラリーカーを見、エキゾースト・サウンドを聞く旅にご一緒しませんか? しかも、ことしは勝田照夫選手(トレノ)の出場が決定し、昨年挑戦した柑本寿一選手(サニー)も現在、出場に向けて奔走中です。日本選手が世界ラリー選手権でどんな“走り”を見せるか……。オフシーズンのため格安に行けるところも魅力です。

日 程 表		
11月20日	21時45分	東京発 英国航空機にて 北極経由 ロンドンへ
11月21日	6時15分 8時00分 8時45分	ロンドン着 ロンドン発 マンチェスター着 レンタカーにてヨークへ 車検風景見学
11月22日 26日	朝 午後	ラリー・スタート RAC国際ラリー見学 フィニッシュ
11月27日	14時45分 15時30分	マンチェスター発 ロンドン着
11月28日	午前 午後	ロンドン市内観光 自由行動
11月29日	11時35分	ロンドン発 英国航空機にて 東京へ
11月30日	9時50分	東京着 通関後解散

(日程の詰めによって、若干の行動の変更はあり得ます)



●費用:ひとり当たり……32万5000円
お申し込みの際、ご予約内金としてひとり3万円を申し受けます

企画:日本交通公社川崎支店・海外旅行センター
川崎市川崎区駅前本町1-2 ☎044-211-1151(代)
後援:モーターファン・AUTO SPORT